

35歳以下の年次会員制度で 定着率を高める

栃木県・鹿沼72カントリークラブ

来場客を引き留めるためには、囲い込み策が重要となる。そんななか、鹿沼72カントリークラブ（45H・M）は「U-35会員制度」で若いリピーターを増やしている。

「U-35会員は17年12月に始めた35歳以下に向けた年次会員制度です。実は同年1月に30歳以下に向けて同制度を企画したとき、それに先立って20〜30代の来場者に聞き込みを行いました。しかし、入りたいという



GOLFZONのハイエンド機種「VISION PLUS」が2台設置されたバーチャルゴルフラウンジ

20代の方がまったくいなかったことから、年齢を5歳引き上げました」と、支配人の湯澤知氏。当初は人會金1万円・月会費8000円で、プレー代を3500円に設定したが、「何の音沙汰もなかった」ことから金額も見直した。

「入会金1万円・年会費1万円で、入会金に関しては最大4人までのグループ割を認めました（たとえば4人の場合、入会費は1人当たり2500円）。プレー代は平日食事込みで3500円、土日祝が食事込みで5500円とし、通常料金の半分近い値段に設定しました」（湯澤支配人）

反応はよく、1回目の募集定員50名はすぐ満員となった。そこで何度かの増員を経て、もともとも多いときに1300名に達したという（現在は約1000名）。

「最近の若い方は紙のリーフレットをあまり見ないと聞いたので、募集は主にSNSを使いました。LINE

E予約も行っているのですが、インスタグラムに加え、LINEでも週1回前後情報発信をしています。その効果もあり、U-35会員以外にも若いビジター客が増えました」

と、湯澤支配人。同制度は年会費制のため、退会しないように既存会員の引き留め策も重要だが、どのような施策を行ったのだろうか。

「U-35会員向けのコンペを年3回行っています。ただ、これも事前の聞き込みで分かったのですが、若い方の多くはイベントの日程に自分の予定を合わせることを好まず、『空いたときに参加する』傾向が強いようです。以前は会員向けの競技なども頻繁に開催していましたが、予想以上に参加率が低かったため廃止しました。とはいえ、コミュニティ作りは大切なので、年3回のコンペは継続しています」（湯澤支配人）

マナー問題や年配者の声にも気を配る

この会員制度の効果は高く、多くの会員が同世代のゲストを連れてきたことで、会員数以上の若者が来場した。しかし、手放しで喜べる状況でもなかったという。

いう。

「35歳以下だけを優遇することを快く思っていない方もいるという声も耳にしました。また、U-35会員の増員を理事会に打診した際も、反対の声がありました。そこで、ゴルフ場の運営を続けていくためには、こ



21年に電気ピッツァ釜「カリノ」を導入。本格ナポリピッツァは、特に若者客に人気が高いという

「面白いことをしそっ」という期待感が誘引力に

では、鹿沼72CCはU-35会員以外に、どのような施策を行っているのだろうか。

「ピザ釜やバーチャルゴルフラウンジ（シミュレーターを設置したインドア施設）を導入したり、様々なことを行っています。とはいえ、それが直接若者の集客に繋がったかは分かりません。U-35会員の方々を見てみると、上達より、仲間と純粹に楽しみたいというのがいけばん最初に来ているように感じます。そこで、既成概念にとらわれず、新しい取り組みを積極的に行うことで、若い方にも興味を持っていただければと思っています。一方で、既存会員のこととも考慮して、昔ながらのサ-



価格の安さだけを売りにするのではなく、コミュニティの魅力や質の高いコースなども、若者の引き留め策になり得る

3年という長い目で ゴルフ場との繋がりを強化

千葉県・トーヨーカントリークラブ

若者集客の効果を長い目で見ているのが、トーヨーカントリークラブ（18H・M）だ。同CCは24年6月から35歳以下を対象に、年会費1万3

ビスも残すつもりです。規模が小さければ八方美人になりかねませんが、当コースは45日あるので、様々な志向をカバーできることが強みだと考えています」（湯澤支配人）

U-35会員は年次会員制のため、「35歳を迎えた会員をどう正会員に繋げていくかが今後の課題」と湯澤支配人。そのための新会員制度も検討中だという。

200円で割引チケットや乗用カーのフェアウェイ乗り入れ無料のサービスを受けられる「U35CLUB」をスタートした。

「当ゴルフ場は1971年開場と古いので、会員の年齢層も比較的高く、若者の来場者は多くありませんでした。800人前後いる正会員の稼働率は25〜30%で、若い正会員を増やすことを目的として、3年ほど前から募集価格を引き下げています」

と、営業マネージャーの楠本真登氏。現在は正会員募集にも力を入れており、それまで63歳前後だった正会員の平均年齢が50代まで下がったと

競技志向に誘導して 帰属意識を高める

同制度は3年継続することで、入会金免除で正会員に移行が可能（要面接・審査）だが、初年度は十分な手応えを感じたと楠本マネージャーはいう。では、集まったU35CLUB会員を定着させるための施策について、どう考えているのだろうか。

「定期的に懇親コンペを開催しています。事前のアンケートで交流会などに期待している方も多かったため、プレー後に立食パーティや交流ゲームなどを行い、親睦が深まるようサポートしています。6月に3回目を開催したばかりですが、18枠用意して、すぐ満杯となりました」（楠本